

令和6年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	106

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 清水小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
B:肯定率の平均が60%以上90%未満
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 桐山 真美

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	56	44	0	0	3.6	○松山の授業モデルをもとに、授業のねらいを常に意識した授業を行った。 ◆話し合い活動を充実させることで、対話的協働的な学びを深めていく。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員	100	70	30	0	0	3.7	○ICT機器に慣れるにつれて、適切な使い方ができるようになってきている。 ◆アナログとデジタルのベストミックスに関する研修を行い、授業改善を進めていく。
			学校関係者	100	40	60	0	0	3.4	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	62	38	0	0	3.6	○各種調査結果から、本校児童の学力や体力の状況を把握することができた。 ◆効果的な指導方法や家庭との協力の仕方について改善を図る。
			学校関係者	100	60	40	0	0	3.6	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	100	88	12	0	0	3.9	○いきがい交流センター等地域との交流を通して、地域のよさを体感することができた。 ◆交流活動前後の学習を充実させることで、活動の意義をしっかりと伝えていく。
			学校関係者	100	80	20	0	0	3.8	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	75	25	0	0	3.8	○いじめ0の日の取組等により、互いのよさを認め合うあたたかい雰囲気作りができた。 ◆全教職員と児童との関わりを深め、児童が安心して相談できる環境作りを努める。
			学校関係者	100	60	40	0	0	3.6	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	100	56	44	0	0	3.6	○機会をとらえて学校のきまり等の見直しを行い、実態に合った指導を行うことができた。 ◆教職員による指導の相違がないよう、意識統一を図って指導を行う。
			学校関係者	100	80	20	0	0	3.8	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	99	55	44	1	0	3.5	○友遊しみずの方たちとの交流活動を通して、将来に明るい見通しを持つことができた。 ◆外部講師を招いた授業を行い、子どもたちの視野を広げていく必要がある。
			学校関係者	100	40	60	0	0	3.4	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりを努めている。	A	教職員	94	65	29	6	0	3.6	○命が大切だという指導を繰り返すことを通して、安全に対する意識を高めることができた。 ◆下校の様子に不安があるので、地域の協力を得られるように働きかけていく。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	94	47	47	6	0	3.4	○tatoruを活用した健康観察等が定着したことで、健康状態を正確に把握することができた。 ◆養護教諭を中心に全教職員が校内の衛生管理に気を配る必要がある。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	94	76	18	6	0	3.7	○手洗いや換気など、基本的な感染症対策を適切に行うことができた。 ◆マスクの着用や予備マスクの準備がおろそかになることがあるので、改善に努める。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	94	65	29	6	0	3.6	○特別な支援が必要な児童について把握し、対応について意識統一を図ることができた。 ◆支援員の効果的な活用方法を考え、増員を要望し続ける。
			学校関係者	100	25	75	0	0	3.3	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○学級運営に困り感を抱えている教員へのサポート体制を構築することができた。 ◆より風通しのよい組織づくりができるよう、改善に努める。
			学校関係者	100	60	40	0	0	3.6	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	82	18	0	0	3.8	○対話的な学びを取り入れた指導を継続することで、深い学びにつなげることができた。 ◆校内研修を充実させることで、様々な課題への対応力の向上を図っていく。
			学校関係者	100	80	20	0	0	3.8	
保護者・地域との連携	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	53	47	0	0	3.5	○まつやま型コミュニティスクールの実施に向け、地域の方との準備が進みつつある。 ◆関係者間での意識統一を図ることができるよう、具体的な話し合いを進めていく。
			学校関係者	100	60	40	0	0	3.6	
情報提供	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	65	35	0	0	3.7	○学校だより、学年だより、ホームページ等、機会をとらえて情報を発信することができた。 ◆内容の質の向上に努め、よりタイムリーな情報を提供できるようにしていく。
			学校関係者	100	80	20	0	0	3.8	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	100	56	44	0	0	3.6	○季節や行事に合った展掲示や児童の活動の様子を紹介する展掲示をすることができた。 ◆個人情報に配慮しながら、展掲示に児童の作品を積極的に生かしていく。
			学校関係者	100	80	20	0	0	3.8	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	B	教職員	94	75	19	6	0	3.7	○進学の機会をとらえて、関係園や中学校との連携を深めることができた。 ◆普段の授業を参観する機会を作るなど、情報交換や共有の機会を増やす必要がある。
			学校関係者	80	60	20	20	0	3.4	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	100	81	19	0	0	3.8	○幼保との連携を進めるとして、新入児の様子を把握することができた。 ◆教科主任等を中心に、系統性を重視した学習についての研修を深める必要がある。
			学校関係者	80	40	40	20	0	3.2	

令和6年度 保護者アンケート結果

【評定】 4：とても思う（あてはまる） 3：やや思う（あてはまる）
2：あまり思わない（あてはまらない） 1：全く思わない（あてはまらない）

	質問項目	評定 (%)				平均値
		4	3	2	1	
①	学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	34	57	9	0	3.3
②	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを生かした授業改善に取り組んでいる。	33	55	12	0	3.2
③	学校は、児童の学力や体力の状況を把握し、計画的に指導を行っている。	27	61	12	0	3.2
④	学校は、いきがい交流センターしみずや他校等との交流を深め、「ふるさと清水」を愛する児童の育成に努めている。	63	35	1	1	3.6
⑤	学校は、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	30	56	12	2	3.1
⑥	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	21	56	21	2	3.0
⑦	学校は、命を守る安全教育や防災教育を推進している。	48	49	3	0	3.5
⑧	学校は、児童の健康状態を確認し健康的で規則正しい生活を送る児童を育てている。	33	59	7	1	3.2
⑨	学校は、状況に応じた感染症対策を適切に行っている。	34	55	8	3	3.2
⑩	学校は、特別な教育的支援を必要とする児童に対して、個に応じた指導を行っている。	38	53	9	0	3.3
⑪	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	39	53	7	1	3.3
⑫	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	51	44	5	0	3.5
⑬	学校は、言語活動の整備及び展掲示の充実等の環境整備に努めている。	39	51	10	0	3.3
⑭	学校は、学校図書館を活用して、読書活動の充実を図っている。	43	45	11	1	3.3
⑮	学校は、奉仕の心を育てる愛校活動を推進している。	39	48	13	0	3.3
⑯	学校は、未来を考えた、SDGs教育を推進している。	24	61	15	0	3.1

令和6年度 児童(1・2・3年生)アンケート結果

【評定】 4：とても思う（あてはまる） 3：やや思う（あてはまる）
 2：あまり思わない（あてはまらない） 1：全く思わない（あてはまらない）

	質問項目	評定 (%)				平均値
		4	3	2	1	
①	じゅぎょうがよくわかり、たのしくがくしゅうにとりくんでいる。	76	22	2	0	3.7
②	ノートとタブレットのよさをつかいわけて、がくしゅうをがんばっている。	67	29	3	1	3.6
③	べんきょうやうんどうを、まいにちがんばっている。	72	21	5	2	3.6
④	「いきがいこうりゅうセンターしみず」などこのこうりゅうがたのしく、「ふるさとしみず」がすぎである。	76	19	4	1	3.7
⑤	いじめやさべつをゆるさないせいかつをおくっている。	70	18	8	4	3.5
⑥	ちいきのかたやせんせい、ともだちにげんきのよいあいさつをしている。	70	23	4	3	3.6
⑦	じぶんのしょうらいにゆめをもっている。	84	8	6	2	3.7
⑧	はやね・はやおき・あさごはんをまもり、きそくただしせいかつをおくっている。	51	38	8	3	3.4
⑨	てあらいなどをきちんとして、かんせんしょうたいさくをしている。	70	26	2	2	3.6
⑩	こうつうじこにあたりけがをしたりしない、あんぜんなせいかつをおくっている。	77	18	4	1	3.7
⑪	がっこうとしょかんをりょうして、どくしょをたのしんでいる。	62	27	9	2	3.5
⑫	そうじをいっしょうけんめいしている。	77	19	3	1	3.7
⑬	SDGsのいみがわかり、じぶんにできることにとりくんでいる。	62	28	9	1	3.5
⑭	がっきゅうやがくねん、たてわりはんのともだちとなかよくかつどうしている。	77	20	2	1	3.7

令和6年度 児童(4・5・6年生)アンケート結果

【評定】 4：とても思う（あてはまる） 3：やや思う（あてはまる）
2：あまり思わない（あてはまらない） 1：全く思わない（あてはまらない）

	質問項目	評定 (%)				平均値
		4	3	2	1	
①	授業がよくわかり、楽しく学習に取り組んでいる。	60	35	4	1	3.5
②	ノートとタブレットのよさを使い分けて、学習に役立てることができている。	69	29	2	0	3.7
③	勉強や運動に、毎日一生懸命取り組んでいる。	50	40	9	1	3.4
④	「生きがい交流センターしみず」などとの交流や総合的な学習で学んだ、「ふるさと清水」が好きである。	50	37	13	0	3.4
⑤	いじめや差別を許さない生活を送っている。	73	23	3	1	3.7
⑥	地域の方や先生、友達に元気のよいあいさつをしている。	46	44	9	1	3.4
⑦	自分の将来に夢をもっている。	54	26	14	6	3.3
⑧	早寝・早起き・朝ごはんを守り、規則正しい生活を送っている。	44	40	15	1	3.3
⑨	手洗いなどをきちんとし、感染症対策をしている。	63	31	5	1	3.6
⑩	交通事故にあたりけがをしたりしない、安全な生活を送っている。	82	16	2	0	3.8
⑪	学校図書館を利用して、読書を楽しんでいる。	50	34	14	2	3.3
⑫	掃除を一生懸命している。	62	33	3	2	3.6
⑬	SDGsの意味が分かり、自分にできることに取り組んでいる。	45	41	13	1	3.3
⑭	学級や学年、縦割り班の友達と仲良く活動している。	69	29	1	1	3.7
⑮	愛校活動を頑張っている。	64	30	5	1	3.6